發行餘言

白崎嚴成

本書は高祖一千二百五十年の聖忌に際して報恩謝德の微衷を表せんが爲めに、摩訶衍同人諸氏が特に五部九卷を中心としての芳躅にして、素より學者の研究に資するの目的にはあらず。唯だ高祖を知らざる人、此の書に據りて高祖に接することを得べく、高祖を信ずるの人は更に此の書を得て愈々信念の增上を與へられん。

本書の編輯成るに際しては同人諸氏等しく校閲の勞を盡され、而も惜しむらくは刊行その急をいそぎ十二分の是正を仰ぐ事能はず。殊に岸、小西兩氏の稿に於て組版體裁に些末の缺點あらんも、そは累を編者にのみ能へられん事を。

顧みて思へば遠く開祖七百年御忌に際しては鹿溪同人によりて『法然上人芳躅集』の出づるあり。近くは宗祖開宗七百五十年記念には無礙光同人による『我祖法然上人』の編纂あり。今この聖忌に臨みては摩訶衍同人の『高祖善導大師』の一卷を得。亦偶然ならずと信ず。

本書の編輯に當り、惠谷隆戒、田中順照、井川定慶の三氏より玉稿其他の芳情を與へられしは欣激の至り、近く別册の刊行を以て卷頭に飾り深厚に酬いん。

本書校正に於てはその一半を松本義圓君に、その他の助力を川副淸厚、加藤俊雄、山尾純孝の諸君に負ふ所少なからず記してその援護を謝す。

本書の發閲を終りて貧生亦摩訶衍の編輯室を去らんとす。省みて三霜、恒に同人諸代の絕大の同情と玉稿の惠澤に浴し而も菲才何の報ゆる所なし。自ら發露し懺悔する所なるも、貧生幸ひにして近く高祖の聖地巡禮の行に加はりて長安を訪れんとす。即ち本書を廟塔に呈して報恩を謝德せんのみ。